

国際交流基金助成事業報告書

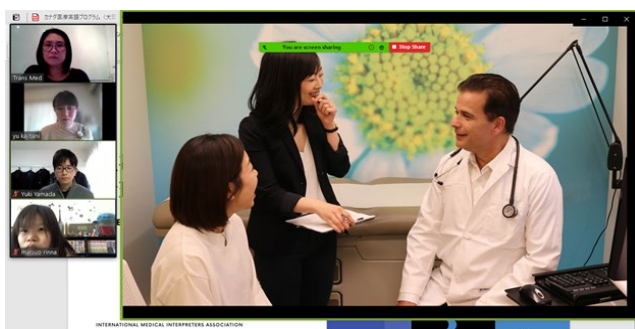
薬学部 1 年次生 梶谷優羽

1. はじめに

国際交流基金の助成を受けて、海外の医療制度について学ぶために、令和3年3月9日から3月13日にかけて、「大阪薬科大学専用プログラム カナダ オンライン留学 医療英語・施設視察コース」をZOOMで受講しました。そのことについて報告いたします。

2. 医療通訳講座

カナダで医療通訳士をされている方から、基本的なカナダの医療体制を学びました。日本では自分で専門医や病院を選んで通院することができます。しかし、カナダではファミリードクターの紹介がないと、専門医に見てもらうことが出来ないそうです。日本と同様にカナダの公的医療保険MSPは、国民皆保険制度を取っています。しかし、カナダでは、治療・手術・入院費などは全額負担してもらえます。処方箋料・薬代は収入で異なることもあるそうです。



3. 医療施設ビデオ

院内の様子や、現地の医療通訳士の方とファミリードクターによる質疑応答の様子を見ました。文化の異なる日本とカナダですが、各国の患者で異なるところは表面的なところだけだそうです。例えば、日本人は風邪をひくと病院で薬をもらいに行きます。一方、カナダ人はできる限り風邪の時、抗生剤などの薬を飲みたがらないそうです。



4. ゲストスピーカー

(1) 薬剤師

カナダで薬剤師をされている日本人の先生から、現場にいるからこそ気付いた日本との違いについて学びました。まず、チーム医療についてです。日本ではこの考え方が広まってきました。それでも薬剤師は、医者言いなりになってしまうことがあります。しかし、カナダでは立場が対等です。その分責任は日本に比べて重いそうです。次に日本ではお薬手帳についてです。カナダはオンライン化しており処方箋偽造に気付くことができ、薬の見落としがないそうです。また、カナダは薬の飲み合わせが良くないと禁忌の合図が表示されるそうです。それにより、調剤による失敗が少ないそうです。



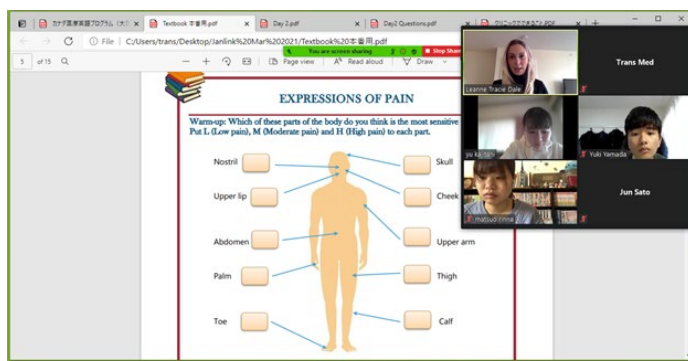
(2) 自然療法医

カナダで自然療法医をされている先生から、日本にあまりなじみのない自然療法について学びました。主に自然治癒力を高めて病気の根本的な原因を特定して治療するそうです。具体的には、食事と生活習慣のカウンセリング・サプリメント/栄養補助・漢方のお茶/西洋ハーブ・鍼灸・水治療・運動・ホメオパシーなどで治療します。またファミリードクターと違い、診察を受けるのに紹介状は不必要で患者と接する時間が長いそうです。



5. 医療・薬局英語

カナダで薬剤師をされている先生に、実用性のある医療英語について学びました。また、問診や薬局での会話をロールプレイングで行いました。英語は同じ意味でも表現の仕方が多いことに気付きました。痛みの種類や表現の仕方が難しかったです。また、英語で聞き取れなかったところはきちんと聞き返さないと、命に関わる問題だと思いました。



5. 最後に

この国際交流基金助成事業により、大変貴重な経験をさせていただきました。日本とカナダでの医療の違いについて実際に質疑応答をすることで、詳しく知ることができました。また、英語があまりうまく話せなくても、ジェスチャーや易しい表現で言い換えることでネイティブの方に伝えることができました。これは、今後英語を勉強する上で大きな自信となりました。今年度はオンラインでの実施であったため、通常通りの留学と異なることに不安がありました。しかし、学生課の方、旅行会社の方そして現地の方のサポートにより無事楽しく留学ができました。オンラインなので、普段の留学よりも参加しやすいようにも感じました。この国際交流に関してご支援くださいました方々に深く感謝申し上げます。